

令和 8 年度第 1 回社会教育委員会議定例会（第 34 期） 会議録

会議名（審議会等の名称）		令和 8 年度第 1 回社会教育委員会議定例会（第 34 期）
開催日時		令和 8 年 4 月 27 日（月曜日）午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
開催場所		文化創造拠点シリウス 6 階 生涯学習センター601 講習室
出席状況	委員	9 人：大川委員、大谷委員、小早川委員、小森委員、齋藤委員、中山委員 藤倉委員、丸田委員、山岡委員
	関係各課	6 人：健幸・スポーツ部長、文化振興課長、図書・学び交流課長、 スポーツ×ライフ課長、こども部長、こども青少年みらい課長
	事務局	3 人：図書・学び交流課学び交流係長、同係員 2 人 学び交流係（259-6104）
	傍聴人数	1 人
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
非公開・一部非公開の場合はその理由		
		<p>1 会議次第</p> <p>（1）開会</p> <p>（2）報告事項</p> <p> 1）令和 8 年度社会教育関係の主要な事業について</p> <p>（3）協議事項</p> <p> 1）令和 8 年度社会教育関係団体への補助金について</p> <p> 2）令和 8 年度社会教育委員会議から選出する委員について</p> <p> 3）令和 8 年度社会教育委員に関する研修会等について</p> <p> 4）今後の調査・研究について</p> <p>（4）その他</p> <p>（5）閉会</p> <p>2 審議及び結果</p> <p>主な内容は次のとおり</p> <p><開会></p> <p> ※ 開催に先立ち、本会議の委員であった伊藤能之氏の退任について報告。</p> <p><議長あいさつ></p> <p><関係各課紹介></p> <p><事務局から配布資料の確認></p> <p><傍聴の承認></p> <p><報告事項></p> <p>「1）令和 8 年度社会教育関係の主要な事業」について、担当課（文化振興課、スポーツ×ライフ課、図書・学び交流課、こども青少年みらい課）より報告。</p> <p>（議 長）担当課からの報告に対し、質問等があればお願いしたい。</p> <p>（委 員）スポーツ×ライフ課の大和市駅伝競走大会について、以前に比べて参加チームは増えているのか、減っているのか。</p>

(市) 大和市駅伝競走大会は、新型コロナウイルスの影響で令和2・3年度は中止となり、令和4年度に再開した。令和4年度は86チームだったが、令和8年1月に実施した大会の参加チームは163チームと、コロナ前までの実績とまではいかないものの、徐々に参加チーム数は戻ってきている。

(委員) こども青少年みらい課のこども体験事業については、毎年敢行し、青少年健全育成大会でも子どもたちが一生懸命に発表をしていたのが、印象に残っている。今年度無いのは残念だ。資料1を見ると、令和8年度の予算額が0円とあるが、2泊3日の宿泊研修等はどうにして行う予定なのか。

(市) 今年度については、青少年健全育成大会の発表も含めて、こども体験事業は一旦休止とする。来年度以降どのように実施していくのか、また、こども青少年みらい課で所管している他の宿泊研修との差別化なども、検討していきたいと考えている。

(委員) こども体験事業はとても良い事業である。なかなか、他の学校の人と会ったり交流をしたりする機会はないので、こういった事業を継続することはとても大切だと思う。ぜひ、来年度以降も色んなところへ行き、子ども達が交流できるような場をつくることを検討してほしい。

(委員) 昨年の関東甲信越静社会教育研究大会で、真鶴町が子ども同士の交流事業を行ったと報告があった。真鶴町は海に近いのだが、子ども達には山で遊ぶ経験がない。そのため交流事業では、海に近い地域と山に近い地域の子供達が、お互いに行き来しながら研修やイベントを行った。大和市も大和の特色を生かした、他の地域の子供が普段体験できないようなことを体験できる、そういう交流があると良いと思う。

< 協議事項 >

「1）令和8年度社会教育関係団体への補助金」について、担当課(図書・学び交流課、こども青少年みらい課)より説明。

※補足→ 図書・学び交流課が大和市 PTA 連絡協議会に支出予定の補助金(162,000円)については、令和8年5月18日(月)に開催された当該協議会の予算総会において、申請額が156,000円に変更されることが判明した。小学校1校がPTAを活動休止したことが減額理由である。そのため、当該協議会の中で、本年度に社会教育事業を実施する学校数は27校から26校に減少している。

(議長) 事務局からの説明に対し、質問等があればお願いしたい。

(委員) 引地台中学校 PTA が解散したとのことだが、そのような動きは他の地域でもあるのか。

(委員) 引地台中学校 PTA の解散の主な理由はなにか。

(市) 昨年度の引地台中学校の会長は、既に中学校を卒業した生徒の保護者だったのだが、会長職を引き継ぐ会員がいなかったため、やむを得ず継続していた。そのような経緯もあり、これ以上の継続は不可能と引地台中学校の PTA が判断したため、解散となったと伺っている。

(委員) 役員の成り手、会長の成り手不足というのは、どの団体でも起こっている。子ども会もだんだん会員数が減ってきている。

(市) こども青少年みらい課で所管しているのは、子ども会連絡協議会に加入している子ども会だけなのだが、こちらについては所属数が25だったものが令和8年度は23に減少している。市内全域の子ども会の数については、把握していない。

(委員) 現在の自治会数はいくつか。

(市) 最新の会数については把握をしていないため、後日回答する。

※ (回答) → 単位自治会数：151 (うち1団体体会)

連合自治会：10

自治会数合計：161

(市) 子ども会連絡協議会に所属せず、自治会単位で活動している子ども会や、自治会の子ども部のように事業として活動するなど、色々なやり方があると聞いている。

(委員) 引地台中学校の件だが、単位PTAの会員になることに対して、後ろ向きな空気があることを市内各校で感じている。市として補助金を出すということは、ある程度その活動の振興を図る意味合いがあると思う。引地台中学校のようにPTAの組織自体がなくなったり、活動中止になったりといったことが今後も起こりかねないという懸念があるのだが、市として各校のPTAに対してどのように指導や助言を行っていきたいと考えているのか。

(市) 図書・学び交流課は大和市PTA連絡協議会に補助金を支出している。大和市PTA連絡協議会は社会教育関係団体であり、社会教育法上、市は社会教育関係団体の求めに応じ、専門的技術的指導又は助言を与えることができると規定されている。昨年度もPTAの適正化について、求めに応じて助言を行った。ただ、自立した社会教育関係団体ということで、まずは各学校で会員が集まって、今後の学校のPTAをどうしていきたいのかということはあるべきだと思う。その上で相談等があれば、市としても助言等を行っていく形になると考える。

(委員) 補助金を出している関係上、補助金を出したら終わりではないと思う。やはりPTAと関わっていかねば、補助金がどのような使われ方をしているのか、どのような活動をしているのかが把握できない。生涯学習推進計画のなかに社会教育主事・社会教育士の活動の場がしっかり位置付けられているのだから、PTAに社会教育主事等を派遣し、指導・助言を行う。確かに求めに応じてとはあるが、やはり自ら行く必要があると思う。

(委員) 母親クラブについてだが、私が子育てしていた当時は、現役世代ではなく子育てを終えた世代の方が会員として多く所属していた。現在はどのような傾向にあるのか。

(市) 現在の母親クラブの会員数は213人であり、減少はしていない。地区によってはPTA等とのつながりから、新しく加入する会員もいる。活動については、最初は母親同士の学習の場として設立したものだったが、現在は地域のお母さんとして各種イベントへの参加や、青少年の健全育成活動について協力していただいている状況である。今後の母親クラブの活動形態等についても、事務局として共に考えていきたいと思う。

(委員) 社会教育委員には、社会教育関係団体の自立を促すためのサポートをしていく役割がある。実践的な部分だけではなく、色々な場面で指導・助言を行っていく必要があると考える。そうでなければ、社会教育関係団体の自立は叶わない。そういった点

を行政の方でも考えていただきたい。

(議 長) 他に質問は無いか。無ければ今年度の社会教育団体への補助金について承認してよいか。

(委 員) 異議なし。

～休憩～ (関係各課退席)

～再開～

<協議事項>

2) 「令和8年度社会教育委員会議から選出する委員」について事務局より説明。互選により、以下のとおり決定。

- ・文化芸術活動支援補助金選考会議委員：小森委員、藤倉委員
- ・青少年問題協議会委員：丸田議長
- ・子ども読書活動推進会議委員：大川委員
- ・神奈川県社会教育委員連絡協議会理事：丸田議長
- ・文化創造拠点等運営審議会委員：齋藤委員

3) 「令和8年度社会教育委員に関する研修会等」について事務局より説明。互選により、以下のとおり決定。

- ① 県社会教育委員連絡協議会総会 (令和8年6月8日)：全員
※ 齋藤委員、中山副議長は欠席。
※ 丸田議長は総会担当理事として、当日の運営に参加予定。
- ② 県社会教育委員連絡協議会地区研究会 (横浜市会場) (令和8年9月2日)：藤倉委員
- ③ 県社会教育委員連絡協議会研修会 (令和8年9月11日)：中山委員、小森委員
- ④ 社会教育委員連絡会議 (令和8年10月16日)：丸田委員、齋藤委員
- ⑤ 知ることからはじめる人権啓発研修講座 (令和8年11月26日)：大川委員、大谷委員
- ⑥ 第68回神奈川県公民館大会 (令和9年1月21日)：小早川委員、山岡委員
- ⑦ 県社会教育委員連絡協議会地区研究会 (南足柄市会場) (令和9年1月22日)：小森委員

4) 今後の調査・研究について

(市) 2月17日の会議において、今後の調査研究テーマについて検討していただいたところ、次の3つのテーマが出た。一つ目が地域課題の把握、二つ目が家庭教育支援の強化、三つ目が地域学校協働活動、コミュニティスクールへの参画とサポートである。地域課題の把握については、3月に市内5館の学習センターへアンケートを実施したので、その結果は資料5を基に報告させていただきます。

まず、【質問1】として、「現在の利用者層やニーズについて、直近一年間で、窓口や利用状況から感じられる「変化」や「傾

向」を教えてください」を提示したところ、高齢者の孤立や団体活動の担い手不足が深刻であると、5館中4館が回答した。また、テレワークや学習目的の個人利用が増えている、と5館中4館が回答している。学習センターの利用団体については、仲間同士の活動に限定する団体が増えており、メンバーの新規入会などに消極的で、活動を広げようという意識があまり見られないという傾向があると聞いている。

【質問2】「地域課題に関する利用者の声」では、「窓口で市民から寄せられる「困りごと」や「要望」などから、地域における社会教育上の課題と捉えていること」を回答してもらった。例えば、高齢の男性のサークルへの呼びかけと受け皿は課題である。高齢の男性は、なかなか自分から積極的に希望の団体に入りたいというアクションを起こしにくい傾向にある。全体的な課題として、サークルを継続するにもメンバーの高齢化が進み、若い世代が既存サークル活動への参加をしないので、後継者の担い手が不足しているサークルが増えてきている。若い人は、既存のサークルに入るよりも、自分達でサークルを立ち上げる傾向があると聞いている。既に出来上がっている人間関係に入っていくことに、抵抗を感じる若い人は多い。そのため、古い団体はメンバーが高齢化し、新しい人が入りにくくなる、という傾向にある。

また、高齢化に伴い、「スマートフォンやデジタル機器等が分からない」という対応、相談が増えているとのことである。高齢者のデジタル知識やネットリテラシー不足、デジタルデバイドは問題であり、世間のデジタル化に取り残されることなく、正しい情報の収集を利用者ができるようにしていかななくてはならない。

シリウスにはぶらっと大和という216人の利用者が入るフリースペースがある。常に混み合っているが、主に個人が利用しており、生涯学習センターの会議室は団体が使用している。同じ学習センター内にあっても、個人と団体が連携したり、交流したりする機会ができていないと、学習センターの指定管理者も感じている。

以上が、学習センターの職員が感じている現場の課題である。今回のアンケートの結果は、学習センターの登録団体が抱えている課題に限定されるものの、実際、地域の高齢者がデジタルに対する知識不足等で、以前だったら触れられた情報に触れることができなくなっているという問題は少なからずあるのではないかと考える。

- (議長) 今後の調査・研究について、皆さんから意見を伺いたい。
- (委員) 地域課題を整理するのであれば、研究対象の年代なども考慮したほうが良いと考える。
- (委員) 5館のアンケート結果から、地域課題としては、高齢化社会への対応、あとは時期的に多文化共生も必要だと思う。2月の会議の後、文部科学省からもコミュニティスクールに積極的に取

り組むように、という旨の通知が3月に来たのだが、協議会が取り組むべき例示として、家庭教育支援が挙げられている。また、放課後の児童対策や地域の教育機関、社会教育施設、民間企業・団体との連携を行っていくうえでの橋渡しを、学校運営協議会が行っていくのが良いともあった。そういった役割のヒントを、社会教育委員が作ってあげることもできるのではないかと考える。

(委員) 子ども達にとって、地域の大人と関わる機会が増えることは、とても大きな学びになると思う。一から何か始めるというのはハードルが高いが、例えば、現在行っている放課後子ども教室の活動日のうち、まずは1日1時間、少人数の地域の人と交流する時間を設置して、地域のシニアの人達と、未就園児や小学校低学年のお母さん達が交流する機会をつくってみてもよいと思う。学校に負担がかかること、問題が起こることは一番の懸念だと思うが、月に1回、1時間でも、学校という身近な場所でそういった機会を持てれば嬉しいという人もいると思う。

(委員) 市内の小中学校に空き教室はあるのか。北側は足りず、南側には余裕があったように思うが。

(市) 北側、特に林間小学校などは教室の余裕がない。南側は市北部と比較して、教室の余裕があったと認識している。

(委員) こども食堂がいろいろな場所で行われている。大和市では放課後寺子屋やまと等をすでに行っているが、子どもの相談相手になる、お年寄りと子どもが触れ合うといった部分について、橋渡しの役割を社会教育委員としてできるかもしれない。

(委員) 一人で家にいる高齢者は数多くいるように感じる。そういった人達は外との交流が少ないので、やはり何らかの形で交流をし、話をして、それでお互いに元気を与えあうような、シニアの人たちが元気に過ごせるような場があればと思う。既に出来上がったサークルのなかに一人で入っていくことは、とても難しいことだと思う。なので、声かけなどを通して高齢の方々とお話ができるような場があればいいと思う。

(委員) 提言書なり報告書式なりをまとめたら、それを行政にどのように施策として活かしてもらうのか、ということも併せて考えながら、協議を深めていかなければならない。話し合ってから終わりではなく、行政にやってもらうつもりで提言を行う。施策としてどのように行うのかは、行政の方も念頭に置いて考えてほしい。

(委員) 喫緊の問題として考えるのは、コミュニティスクールだ。大和市では令和9年4月1日から全校で始まると言われたが、実際どのように動けばいいのか、地域を巻き込んでいけばいいのか、というところが全く見えていない。地域の人たちがどのように学校を捉えているのか、地域と子どもをどう育てていくのかといったことを、深めていければと思う。学校は地域のなかでどのような活動ができるのかも知りたい。

(委員) 来年度から全ての学校で学校運営協議会をつくっていく、と

いう話は聞いている。まず大事なものは人選だと思う。誰を選ぶかによって、全然違って来るだろうし、学校評議員制度は個人的にあまり意義を感じない。学校評議員制度は学校の行事を説明し、時に意見を聞く程度のもので、その意見が学校運営に生かされているわけでもない。コミュニティスクールは皆で学校をつくっていくという意識でやっていかなければならない。そうでなければ、学校評議員制度と変わらないかたちになってしまう。

(委員) 高齢者と子どもを結びつける行事を作ってはどうかと思う。高齢者、特に男性高齢者は自分から外に出ようとしない。例えば、その人が得意なことを子ども達に教えてもらう、高齢者が講師になって子ども達に何かを教える場などが、作れたら良い。

(委員) 以前は老人会等が学校に行き、昔遊びを教える、という催しがあった。今はコロナによってやめてしまったという学校もあるが、行っている学校は多かったと思う。

(委員) そういったイベントを定期的に、日常化できるようにすれば、高齢者と子どもの結びつきが生まれるのではないかと思う。

(委員) 日常化、というのは先ほど出てきた空き教室を利用する、という案に繋がってくると思う。

(委員) 学校でできるようなことを高齢者と子どもが一緒に行うことで、高齢者が外に出る機会をつくれるのではないか。

(委員) 高齢者の孤立化という話は課題だと思う。地域で定期的に人と関わる機会というのはやはり少ない。高齢者の居場所をつくり、そこに子ども達も集まって多世代が交流できるような仕掛けづくりができないだろうか。高齢者のなかには趣味を多く持つ方もいる。自分で学んだり、取り組んだりしていることを誰かに良いと言ってもらえるような、発表の機会があるといい。空き教室や生涯学習センターより、もっと気軽に集まれるとなおいい。そういう取り組みができれば、コミュニティスクールを始めたときに「ここに行くこんな人がいる」「困ったときにはあの人に頼れる」といった、人同士のつながりが広がっていくのではないかと思う。

(委員) 資料5のなかに記載のあった「高齢者のデジタル機器の対応に不安がある」という点については、取り組みが必要だと思う。家庭教育に関しては、現在少子化が加速しているので、家庭教育支援とは非常にリンクするところがある。取り組むべき価値があると考え。コミュニティスクールに関しては、社会教育委員と市と一緒に取り組んでいきたい、という意思表示をしたうえで、ともに学んでいく姿勢が大事である。どの地域課題も大事だが、今回は家庭教育支援を取り上げたいと考える。

(委員) 家庭教育支援については、提言や施策を出したから終わりではなく、それらがどのように実行されていくのかを見ていかなければならない。

(議長) 高齢化社会については、どのように高齢者の居場所をつくっていくのか、健康づくり等を行っていくのか、というのが大きな

テーマであると感じた。コミュニティスクールも、学校側が一番困難に感じていると思う。来年度から始めるといっても、人材選びやテーマ、学校の特色等を考えるとといったことを、地域の人々と取り組んでいくのはなかなか難しいものだろう。モデル校で数年間やったという話は聞いたが、そのモデル化がすべての学校に行き届くかという大変疑問である。コミュニティスクールは指導室が行っていることである。社会教育委員と指導室が協力し合うような場合には、行政に間に入ってもらう必要がある。もしそのような機会があれば、社会教育主事から「このような方法がある、このようにやった方がよい」など、助言してもらいたい。

今回は、高齢化社会に関する取り組みについて多く意見が出た。そのため、今後の調査・研究テーマは、高齢化社会において社会教育はどうサポートできるのか、というテーマにしたいがよいかな。

(委員) 話し合いのなかでは高齢者と子どもとのかかわりあい、協働を通じた家庭教育支援も話題に上がっていた。高齢化というテーマのなかにそういったものも含めるのならば、高齢化がテーマでよいと思う。

(委員) 指導できる講師がいれば、高齢化社会と子どもというテーマについて、勉強会をしたいと考える。現在も大和市のなかで高齢者は増えてきている。そういった人たちをどのように健康に導いていくかというテーマで調査・検討を行っていききたい。

(委員) 既に市や社協で行っている高齢者と子どもを繋ぐような事業を、市内の事業のなかから洗い出すことができればよい。ただ、何を用いて把握すればいいのか分からない。市の事業や学習センター等が既に行っていることを重複して行うのではなく、その隙間を埋めるのが社会教育委員の役割だと思う。市として現時点では、そういった事業を把握しているのか。

(委員) 家庭教育支援の調査・研究をやった時にも、市内の事業のなかから洗い出しを行ったうえで、自分達にできるのはどのようなことかというのを探っていた。高齢化について考えたとき、現在市ではどのような事業を行っているのか、そして社会教育委員は社会教育の観点から、高齢化社会と子どもをどう繋いでいくのか、ということを考えていければいい。

(議長) 他に意見はないか。なければ今後の調査・研究テーマは「高齢化社会」としてよいか。

(委員) 異議なし。

<その他>

会議外資料について

(議長) 今日は委員に向けて『社会教育と生涯学習の基礎』という本を配布している。ぜひ読んで今後の活動の参考にしてほしい。

令和7年度の神奈川の社会教育委員活動（社教連会誌）の原稿について

	<p>(議 長) 令和7年度神奈川の社会教育委員活動(社教連会誌)の寄稿を、現在執筆している。社会教育委員会議で大和市は何を研究テーマとしているか、ということを書く必要があるのだが、今回は前年度までの取り組みと家庭教育支援の提言を受けて、行政が提言を新しい生涯学習推進計画に落とし込んだという話を書く予定である。ご承知おきいただきたい。</p> <p>次回の日程について</p> <p>(市) 次回は令和8年度第2回定例会を7月に開催予定である。候補日としては、7月1日(水)、6日(月)、7日(火)、8日(水)のいずれかで、出席可能委員の多い日にしたいと考えている。開始時刻はいずれも午後3時からを予定している。場所はシリュウス6階、生涯学習センター601講習室で行う。</p> <p>～各委員に確認～</p> <p>7月1日(水) 欠席1名 <u>7月6日(月) 欠席0名</u> ←次回開催日 7月7日(火) 欠席3名 7月8日(水) 欠席1名</p> <p>事務局からは以上である。</p> <p>以上で議事を終わる。 <閉会></p>
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和8年度社会教育関係の主要な事業 ・ 令和8年度社会教育関係団体への補助金 ・ 社会教育関係団体の令和7年度事業報告・決算報告(4団体)、令和8年度事業計画・予算(3団体) ・ 令和8年度社会教育委員会議から選出する委員 ・ 令和8年度社会教育委員に関する研修会等